

2025

みんなくで
色~つけた!

みつけたら
チェックしてね!



アフリカ ヘビの置物 / カメルーン / H0143560



バミレケ族は、カメルーン西部の高地に暮らす人々で、王国社会をつくり、ヨーロッパ人との交易で得たガラスビーズを使って、王冠や仮面、動物の造形物など多様な作品をつくってきました。このヘビは多彩なビーズが刺繍され独特の模様が表されています。

(池谷和信 / 名誉教授)



南アジア ナーグデーブター神 / インド / H0118443

ナーガまたはナーグはヒンドゥー教の神のひとつでコブラの姿をしています。水を守る神として信仰されるほか、民間信仰のなかではヘビに咬まれた人を救うため霊媒に憑依するとされ、土製の像が祠に置かれ崇められています。

(三尾 稔 / グローバル現象研究部)



東南アジア あやつり人形(ヘビ) / ミャンマー / H0229310

これは、ミャンマーの人形芝居ヨウター・ブーに用いられるナーガ(ヘビ)の人形です。人形の各部分に結びつけた糸で、たくみにあやつります。

この人形芝居では、夜を徹してブッダの前世の物語などを演じました。

(福岡正太 / 人類文明誌研究部)



中国地域の文化 衣装(女性用正装) / 台湾パイワン族 / H0274449 ほか

これは台湾原住民民族の伝説をあらわした服です。このヘビは長い牙を持った毒ヘビです。「ヒャボッダ」とよばれてパイワン族の伝説に多く登場します。太陽が壺の中にはいる、そこに蛇もはいっていきました。しばらくすると首長の祖先が生まれたという伝説などさまざまな話があります。服にあらわされていることから、大切にされていることがわかりますね。

(野林厚志 / 学術資源研究開発センター)



日本の文化 絵馬(ヘビ) / 日本 / H0015055

祈願のとき、あるいは祈願がかなったときに社寺に奉納する板絵。生き馬を神に献じる風習が起源だとされます。図柄には馬が多いですが、十二支など縁起がよい動物、狐や狼、白蛇を描いたものもあります。受験シーズンになると天神様に合格を祈願する光景が各地でみられます。

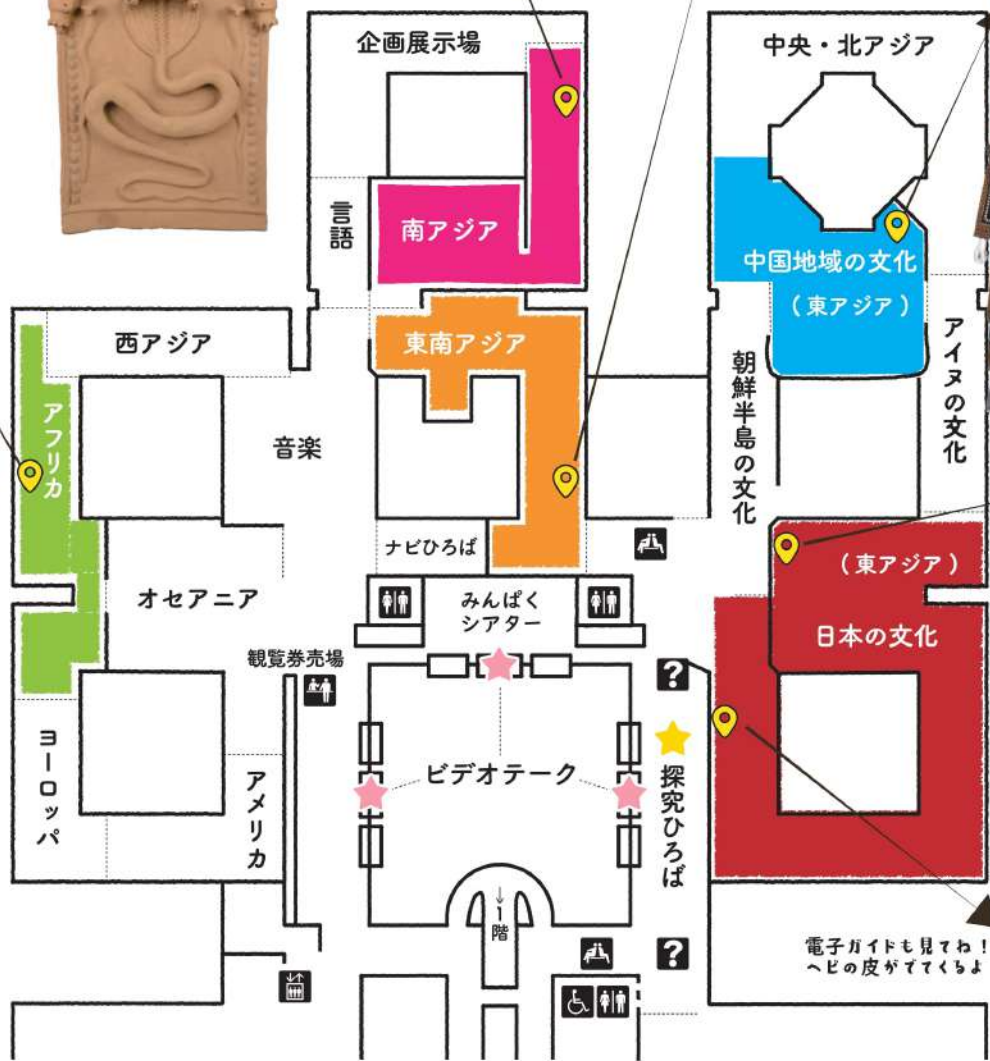
(卯田宗平 / グローバル現象研究部)



日本の文化 三線 / 日本・沖縄県 / H0224345

沖縄の絃楽器。棹は黒檀などの硬い木から作り、胴にニシキヘビの皮を張ります。東南アジア産の5メートルのニシキヘビの皮が3〜4枚の三線になります。ヘビ皮は薄くて丈夫で、胴の木組みに強く張ることができ、張り具合が音に影響します。三線は琉球王国時代からの伝統があり、古典芸能にもポップスにも幅広く使われます。

(藤本透子 / 人類文明誌研究部)



※資料の名前のよこにあるHからはじまる番号(H0000000)は標準資料番号です。

国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

展示場にはヘビがいっぱい
かくれています
さがしてみてくださいね!

